

(財団法人)

機関名	所在地	TEL 番号	FAX 番号
(財)かがわ健康福祉機構 (高齢者総合相談)	高松市番町1丁目10番35号 (香川県社会福祉総合センター内)	087-863-4165	087-863-0090
香川県社会福祉協議会 (香川せいかつあんしんセンター)	高松市番町1丁目10番35号 (香川県社会福祉総合センター内)	087-861-8883	087-861-2664

2 実態調査関係

報道発表資料

「高齢者虐待」実態調査を行いました

- 介護支援専門員の36.9%が高齢者虐待に遭遇 -

【概要】

高齢者虐待には、一般に、身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待、介護や世話の放棄があるといわれています。

今後、痴呆性のある高齢者の増加が見込まれることより、高齢者の権利擁護や虐待への取り組みが重要になってくることから、県では、介護支援専門員を対象に、アンケートにより高齢者虐待の実態調査を行いました。

そこで、今回の調査や医療経済研究機構(厚生労働省外郭団体)による全国調査等の結果を参考にしながら、高齢者虐待問題の課題を明らかにし、平成17年度に改正される介護保険法や次期高齢者保健福祉計画を視野に入れて、取り組むべき方策について検討を行うこととしています。

【調査方法】

期 間：平成16年9月～11月

対 象：介護支援専門員のうち、本年度現任研修受講者 492名

(居宅介護支援事業所及び介護保険施設等に勤務する介護支援専門員は、約800名)

方 法：アンケート調査(調査票は別添のとおり)

回収数：488名(回収率 99.2%)

【調査結果(要約)】

介護支援専門員は、1人で50人程度の利用者を担当しているが、1度でも虐待を取り扱ったことがある(高齢者虐待と感じた類似のケースも含む)と答えた人は36.9%にのぼっている。うち、「居宅」では41.1%、「施設」では26.4%が経験あ

りとしている。

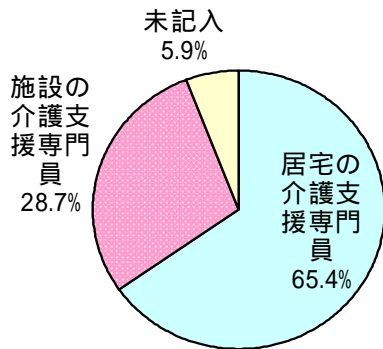
今後、虐待問題に取り組んでいくために必要な制度・体制としては、「多様な問題に対処できるネットワークづくり」が63.9%、「身近な相談機関の設置」が57.6%、「専門職員への研修」が51.0%となっており、介護支援専門員が課題を抱えている姿が浮かび上がっている。また、「緊急一時保護制度の確立」も56.6%となっている。

高齢者の「人権」や「虐待」に関する研修会については、「ぜひ参加したい」と「参加したい」が77.9%と関心が高い。特に、虐待の取扱いの経験があると回答した介護支援専門員は、両方で86.7%と参加希望がかなり高い。

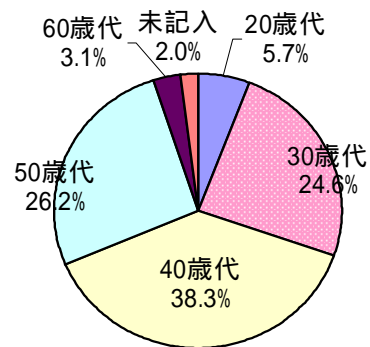
【資料抄】

1 調査対象者である介護支援専門員の背景

(就労先)

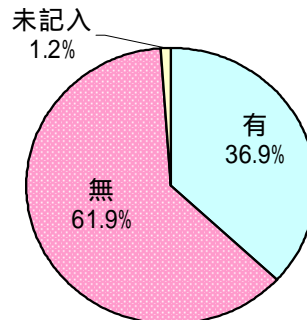


(介護支援専門員の年齢)

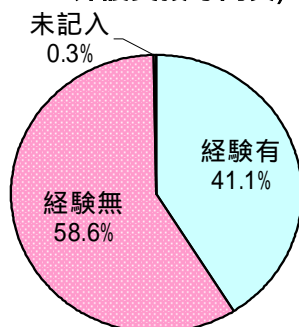


2 これまで高齢者虐待を扱った経験があるか。(高齢者虐待と感じた類似のケースも含む。)

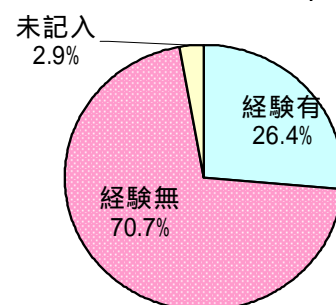
(虐待の取扱経験の有無)



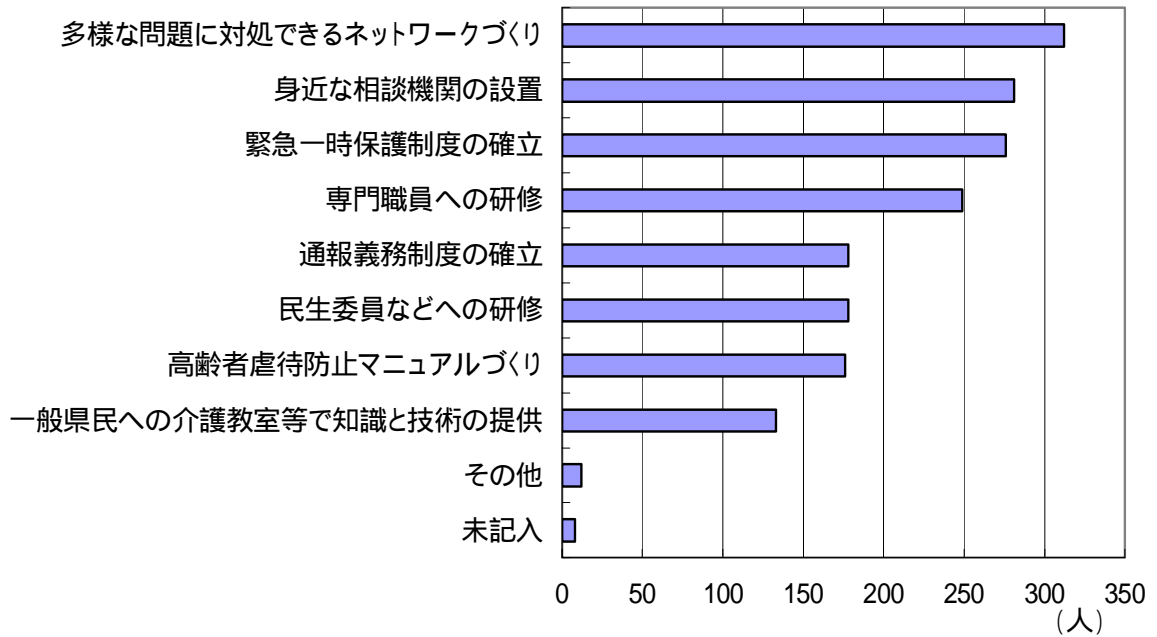
(居宅介護支援事業所に勤務している介護支援専門員)



(介護保険施設に勤務している介護支援専門員)

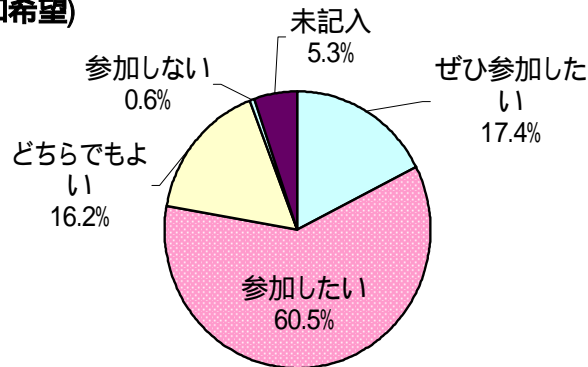


3 高齢者虐待を取り組むに当たって、どのような制度や体制が必要と思うか。

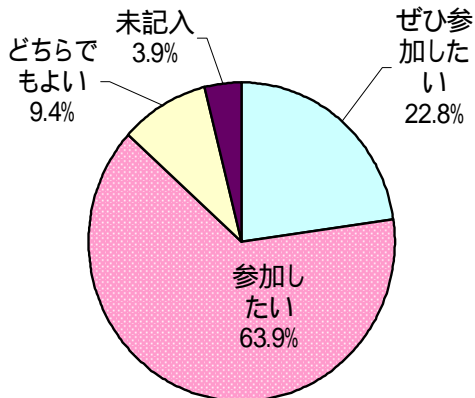


4 「人権」や「虐待」に関する研修会への参加について

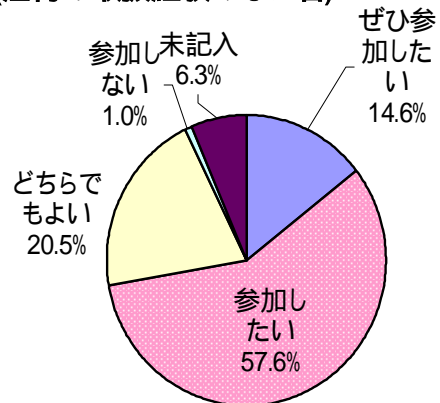
(研修会への参加希望)



(虐待の取扱経験のある者)



(虐待の取扱経験のない者)



認定調査員による介護者聞き取り調査

1 はじめに

高齢者の増加や少子化による年齢構成の変化、核家族化による家族構成の変化、女性の社会進出による家族内の役割の変化、扶養意識の変化等などにより、家庭環境は大きく変わってきている。それに伴い、介護に対する意識にも変化が見受けられる。

平成12年度から介護保険制度が始まり、「老親の介護は家族がすべきもの」という考え方から、必要に応じて介護サービスを利用することが選択肢として定着しつつある。しかし、介護を必要としながらも介護保険の利用が困難な家庭、虚弱であったり精神疾患を抱えている家族による介護等高齢者虐待の素材となる事例は多々あることが想定される。

そこで、介護保険担当保健師連絡会議において、今後の高齢者虐待の防止施策を検討したいと思ひ、在宅で介護に携わっている方の意識調査を行ったので報告する。

2 調査方法及び期間

対象者：平成16年9月～10月に、全市町において認定調査を行ったものを介護して要る介護者

方法：認定調査時に介護者に直接聞き取り調査を行うか、介護認定申請時に前もって渡し、調査時

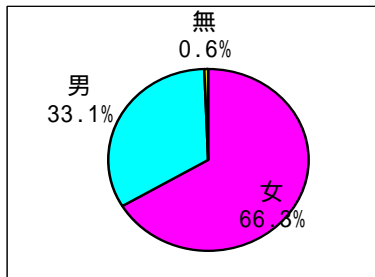
に回収を行う。

回収数：2,004例

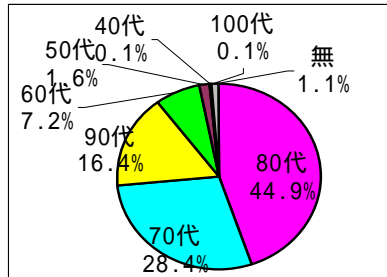
3 調査結果

〔要介護者の背景〕

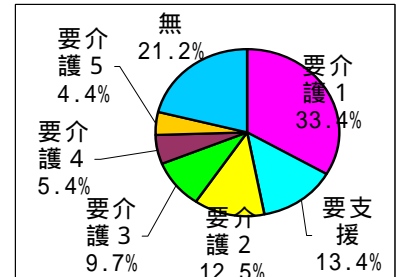
性別



年齢



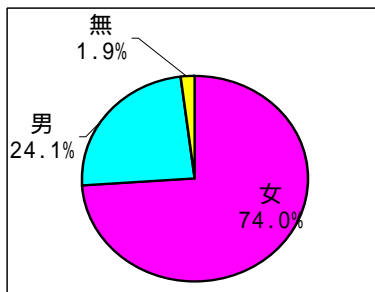
介護度



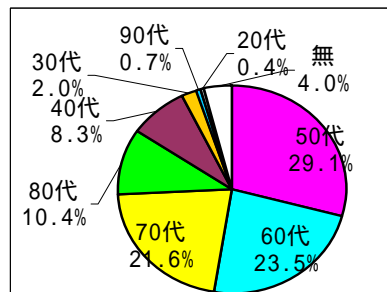
要介護者の背景を見ると、「女性」は66.3%、年齢については、「80歳代」は44.9%、「70歳代」は28.4%、「90歳代」は16.4%となっている。介護度については、「要支援」「要介護1」で、46.8%となっている。

〔介護者の背景〕

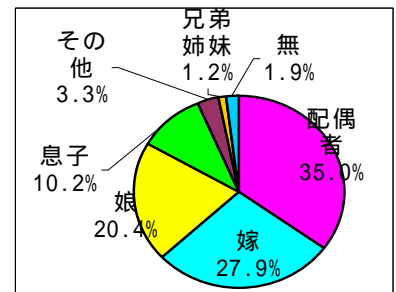
性別



年齢

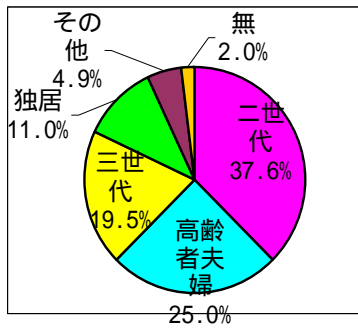


被保険者との続き柄

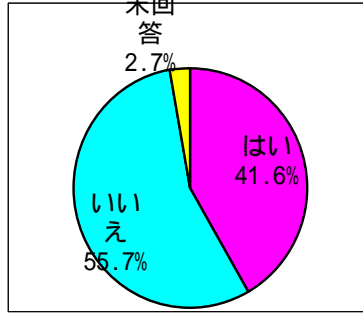


介護者の背景を見ると、「女性」は74.0%、年齢については、「50歳代」「60歳代」「70歳代」はほぼ同数となっている。「80歳代」「90歳代」の老々介護は、11.1%となっている。続き柄については、「配偶者」は35%、「嫁」は27.9%、「娘」、「息子」の順となっている。

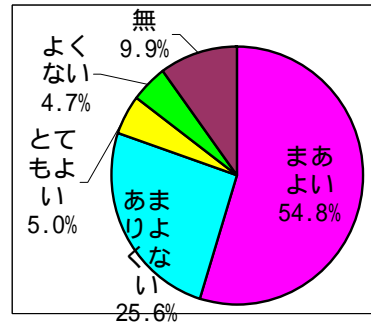
世帯状況



介護を変える人の有無

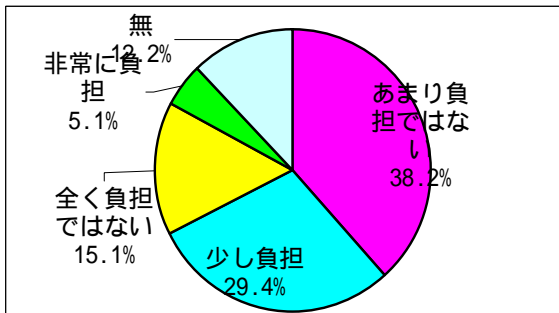


健康状況

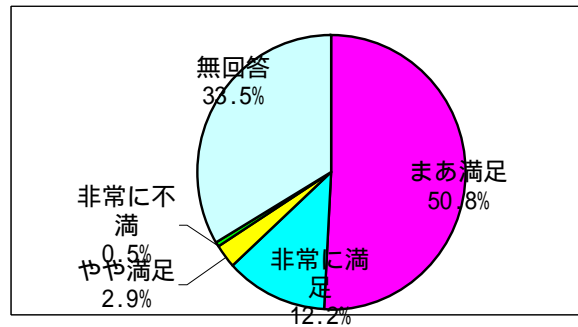


世帯状況については、「二世代」は37.6%、「高齢者夫婦」は25.0%となり、「独居」は11.0%となっている。また、介護を変える人については、「いいえ」は、55.7%となっている。介護者の健康状況については、「まあよい」は54.8%、「とてもよい」は5.0%となっている。

経済的負担

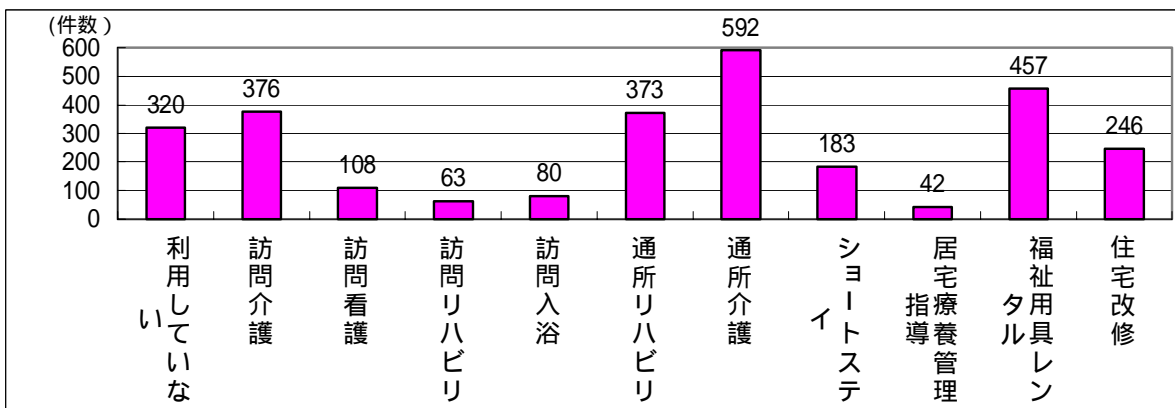


ケアプランの内容



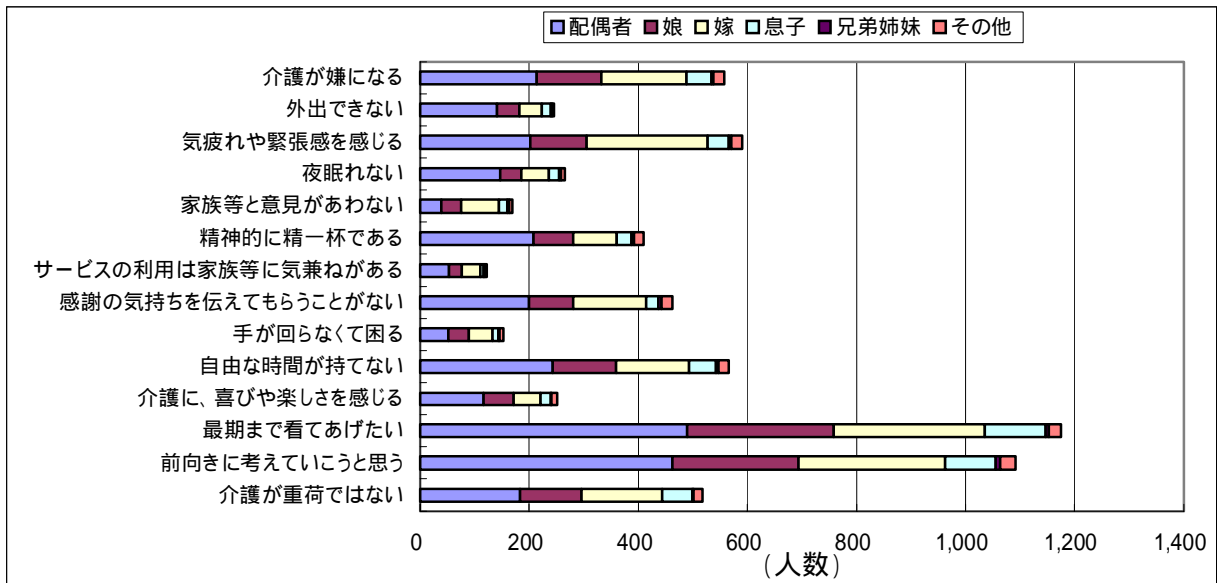
介護保険サービス利用料等にかかる経済的負担については、「あまり負担ではない」は38.2%、「全く負担ではない」は15.1%となっている。また、介護保険でサービスを利用するにあたり、介護支援専門員が作成するケアプランについては、「まあ満足」は50.8%、「非常に満足」は12.2%となっている。

介護保険サービスの利用状況(複数回答)



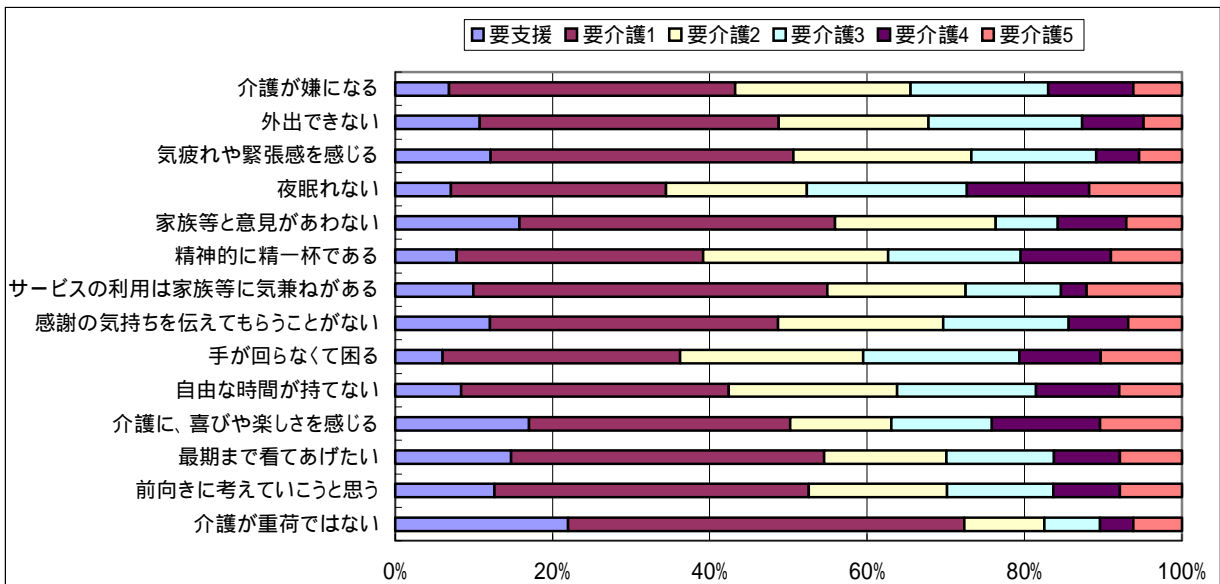
介護保険サービスの利用状況については、「利用していない」が320件(15.9%)となっている。利用サービスの種類は、「通所介護」が最も多く、「福祉用具レンタル」「訪問介護」という福祉系サービスが多くなっている。

介護者の続き柄と介護をして感じることの関係(複数回答)



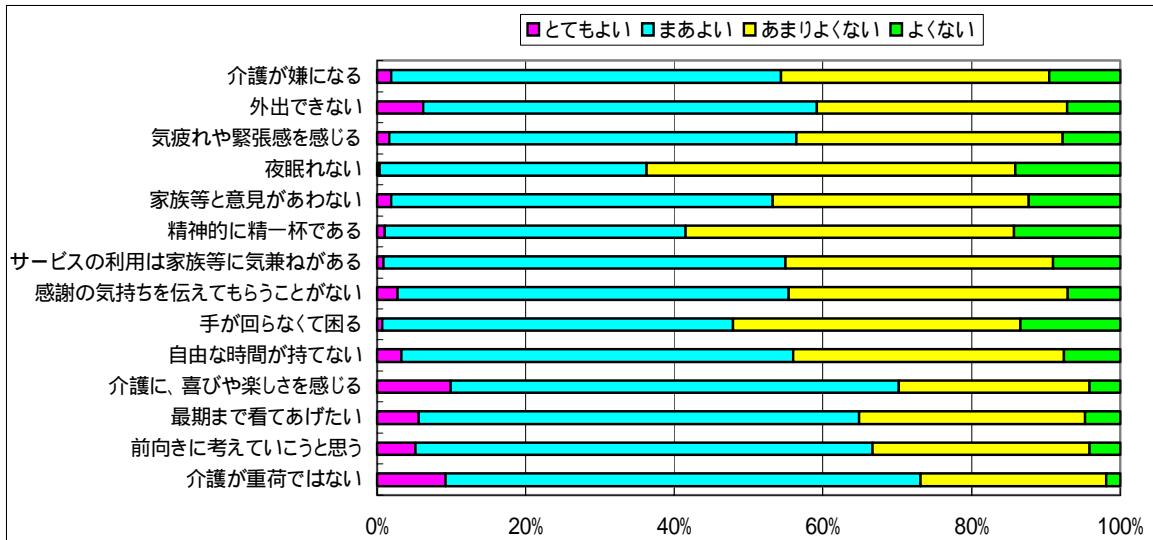
介護について感じていることは、「最期まで見てあげたい」「前向きに考えていこうと思う」というプラスイメージが多くなっている。次に多いのは、「気疲れや緊張感を感じる」「介護が嫌になる」「自由な時間が持てない」「感謝の気持ちを伝えてもらえない」「精神的に精一杯である」というマイナスイメージとして精神的な負担感を抱えているものが多くなっている。続き柄との関係では、実数での割合をみても、大きな差は見当たらない。

介護度と感じていることの関係(複数回答)



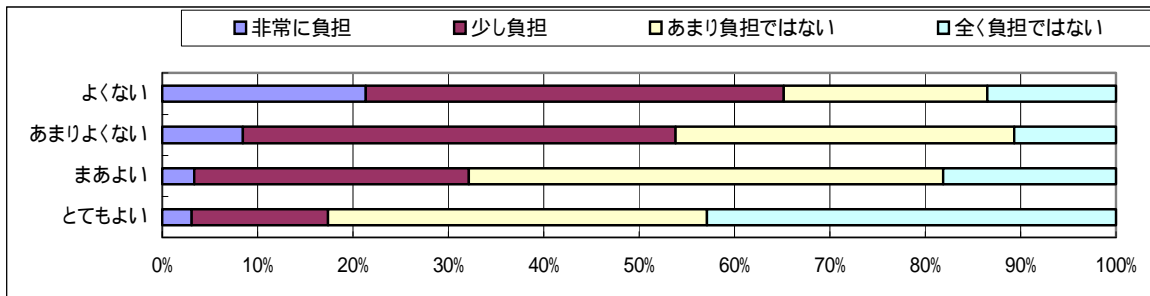
介護度と介護をして感じることについては、「要支援」「要介護1」の軽度の認定を持っている介護者は、「介護が重荷でない」「前向きに考えていこうと思う」「最期まで見てあげたい」「介護に、喜びや楽しさを感じる」というプラスイメージを持っているものが半数いる。反面、「家族と意見が合わない」「サービスの利用は家族等に気兼ねがある」と答えた介護者も多くなっている。「手が回らなくて困る」「夜眠れない」「精神的に精一杯」と答えた者は、中重度者に多くなっている。

介護者の健康状態と介護して感じること(複数回答)



介護をプラスイメージでとらえている者は、介護者の健康状態が「とてもよい」「まあよい」と答えているものが、全体として70%前後となっている。「夜眠れない」「精神的に精一杯である」「手が回らなくて困る」と答えたものの半数は、健康状態に何らかの不安を持っている。

介護者の健康状態と経済的負担について



介護者の健康状態と介護保険に関する経済的負担については、健康状態が「とてもよい」「まあよい」と答えた者ほど、経済的負担を感じている割合は少なくなっている。「健康状態がよくない」者は、経済的負担を感じている割合も高くなっている。

4 まとめ

今回「介護者調査」を行ったところ、さまざまな家庭環境、心身の状態の中で介護者の介護に対する思いを再確認することができた。

介護者の中には、「最期まで見てあげたい」「前向きに考えていこうと思う」と介護を行うことを、プラスのイメージでとらえている者が多く、そういった者は、軽度の要介護認定を受けていること、介護者の健康状態がよい場合などであることがわかった。その反面、要介護者が中重度の要介護認定を受けている場合などは、「介護を変わってもらえるものがない」「気疲れや緊張感を感じる」「自由な時間が持てない」「介護が嫌になる」など介護者は、介護について身体的精神的負担になっていることが伺えた。この状況が長く続くことによって、高齢者虐待の危険性も懸念される。

今後、在宅での介護を行っていくうえで、いかに介護負担を軽減させるか、前向きな気持ちを少しでも維持できるかは課題となる。

そこで、地域において、高齢者虐待を防止するためには、地域におけるねぎらいの声かけ・手助けのネットワークの構築 適正な介護の方法についての普及啓発 介護者同士の交流の場の確保 介護に関する相談窓口の明確化 介護サービスの適切な利用(通所サービス・ショートステイ等) 24時間体制のケアの確立などの施策に取り組む必要があると考えられる。

また、要介護者が在宅での生活を継続させるためには、介護者の健康状態も配慮したケアマネジメントが必要であると考えられる。

～ 介護者のみなさまへ ～

このたび、在宅での介護状況を把握・検討するために介護者調査を実施することとなりました。下記の調査票をご記入のうえ、認定調査日に調査員にお渡し下さい。

介護者調査票

介護を受けている方の 年齢 _____ 歳 性別 男・女 _____ 現在の要介護度 _____

問1 介護状況についてお聞きします。

主に介護を行っている方はどなたですか。

- (1) 性別 1. 男 2. 女
- (2) 年齢 満 _____ 歳 生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
- (3) 続柄 1. 配偶者 2. 娘 3. 嫁 4. 息子
5. 兄弟姉妹 6. その他 (_____)

問2 居宅状況についてお聞きします。

世帯はどのような状況ですか。

1. 独居 2. 高齢者夫婦 3. 二世帯 4. 三世帯 5. その他 (_____)

問3 介護を代わってくれる人はいますか。(ヘルパーなどケア提供の専門職は除く)

1. はい (人数 _____ 人) 2. いいえ

問4 この1週間、あなたは1日あたり平均何時間お世話(食事・着替え・歩行・排泄など)していますか。 1日 平均 _____ 時間

問5 あなたは、日頃介護をしていて、次のように感じることはありませんか。

あてはまる番号に全て をつけてください。

- (1) 介護はたいした重荷ではない
- (2) 趣味などの自分の自由な時間が持てなくて困る
- (3) 介護の苦勞があっても、前向きに考えていこうと思う
- (4) 介護で家事や子育てに手が回らなくて困る
- (5) 介護をしていて感謝の気持ちを伝えてもらうことがない
- (6) 介護サービスの利用は、親族や近所に気兼ねがある
- (7) 介護で精神的には、もう精一杯である
- (8) 自分が最期まで見てあげたいと思う
- (9) 介護のことで家族や親族と意見があわなくて困る
- (10) 介護のために、夜眠れなくて困る
- (11) 介護を受けている方との間に、気疲れや緊張感を感じたことがある
- (12) 介護をしていることで、喜びや楽しさ(やりがい)を感じる
- (13) 介護をする方を伴わないで外出することはない
- (14) 介護をすることが嫌になることがある

引用・参考文献

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」

「高齢者虐待を未然に防ぐため～高齢者虐待 早期発見の手引～」

朝日新聞厚生文化事業団 大國美智子監修 2002.3

家庭内における高齢者虐待に関する調査報告書（平成16年3月財団法人医療
経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構） 2004.3

「横須賀市高齢者虐待事業報告書～事業立ち上げのために～」2004.3

「横須賀市高齢者虐待対応マニュアル（第2版）～高齢者虐待かなと思っ
たら～」 2004.3

「高齢者虐待に挑む－発見・介入・予防の視点」

高齢者虐待防止研究会編 津村智恵子他 2004.7.1

「家庭内における高齢者虐待防止マニュアル」石川県 2005.3

「関係機関のための高齢者虐待防止・支援マニュアル」青森県 2005.3

香川県高齢者虐待防止・対応マニュアル
平成 17 年 11 月

発行：香川県
〒 760 - 8570
香川県高松市番町四丁目 1 番 10 号
香川県健康福祉部長寿社会対策課
保険者指導グループ
電話 087 - 832 - 3270